

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー：眞鍋孝

聖書箇所：詩篇 24篇1節～10節

2023/08/27

メッセージタイトル： 「人のあるべき姿」

2019年末に発生した疫病があつという間に、世界中に流行し、多くの尊い人命が失われて来ました。ワクチンやその他の治療薬の普及により、やっと沈静化傾向になってきました。この4年近くの人類のコロナ禍との戦いに、終止符が打たれることになるのでしょうか。だとすれば、とても感謝なことではないかと思われます。しかしながら、人類の心の病との戦いは、今もなお熾烈な戦いを続けています。心の深い憎しみや、妬みなどを淵源とする国々同士の争い、戦争は今もなお現実のこととして起こっています。どうすれば、人は、争いへと導くこの心の問題を解決することができるのでしょうか。

今日の聖書の箇所は、旧約聖書の詩篇と言われる信仰の証を題材とする歌の一篇を取り上げています。今から、約3千年前に今のイスラエルの地で王であった信仰者、ダビデの生き様が率直に詩文で吐露されているものです。本日は数々のダビデ作の中から、詩篇24篇を選びました。共に味わっていきましょう。

私のメッセージのタイトルは、「人のあるべき姿」とさせていただきました。この詩篇でダビデは、先ず、彼の信じる神はどのような御方なのか、を明らかにし、その上で、その御方によって創造された人々が、どのようにすればその御方との豊かな交わりの中に入ることができるのかを説明しています。この面におけるダビデの心からの勧めは、あなたや私、また、誰であっても、この素晴らしい御方との交わりを享受できるためには、私たちがそれにふさわしい者とされること、すなわち、心も行いも清い者とされ、一切の偶像礼拝から守られ、神の前で義とされる、ことが必要だということです。そのためには、心を開いて主を求め、主の御顔を仰いで、悔い改めなさいと力強く勧めています。

(以後の日本語聖書引用は、とくに釈明しない限り、日本聖書刊行会の新改訳聖書2017年版とします。)

I 人も他の生き物も、その他、地上に存在しているもの一切を造られたのは、 ヤーウェなる神様である (1節～2節)

明治時代のキリスト者、内村鑑三が、深く感銘を受けた聖書箇所は、創世記1章1節のおことばであったようですが、同じような宣言が信仰者ダビデによっても感動をもってなされています。

創世記1章1節：

はじめに神が天と地を創造された。

詩篇24：1, 2節：

地とそこに満ちているもの 世界とその中に住んでいるもの それは主のもの。 主が海に地の基を据え 川の上に それを堅く立てられたからだ。

II 人のあるべき姿は、創造者なる神と和解しその御方との交わりに入れられることにとって形成される（3節～6節）

ここでダビデは、この創造者なる御方との豊かな交わりに入れられる人がどのような人なのかを明らかにします。それらは：

- ① 手がきよく心の澄んだ人(4節)
- ② 偶像崇拜をせず、偽りの誓いをしない人（4節）
- ③ 主なる神様から祝福を受け、義とされている人（5節） です。

このような人々にだけ与えられる救いの恵みは、素晴らしいものです。しかしながら、これらの恵みは、棚からぼたもち式に受けるのではなく、人のしかるべき心の姿勢というべき悔い改めによって与えられるのです。

III 救いの恵みを受けるために人に必要とされる悔い改めの応答（7節～10節）

ダビデだけでなく、旧約聖書に登場する彼の先祖達、とくに、イスラエル12部族の父祖と考えられるヤコブ（6節に言及）こそ、この悔い改めの祈りを捧げた人物でありました。

悔い改めに導かれた人々とは、まさしく、イザヤが57章15節で語ったことの体現者であると考えられます：

イザヤ 57章15節：

いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なところに住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。

結語：

ここでイザヤが指摘している「砕かれた人、へりくだった人」こそ、ダビデが勧める悔い改めであり、心を開いて主との豊かな交わりに入れられるのです。